

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DM686／外国語教育評価論 (Measurement and Evaluation in Language Education)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Foreign and Second Language Testing and Assessment		
担当者名 (Instructor)	小泉 利恵(KOIZUMI RIE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ICC3140	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本科目の到達目標は、理論の概観および実践を通して、外国語教育で用いられる評価の基礎的な理解を深めることである。

The goal of this course is to consolidate the basic understanding of testing and assessment in foreign and second language education, based on an overview of the theory and practical exercises.

授業の内容(Course Contents)

外国語(第二言語)のテスト・評価やその研究の定義からはじまり、テストタスクやテスト後の採点方法などのテストの開発の一連の流れや特徴を学ぶ。さらに、テストや評価の解釈と使用がどの程度適切かを調べる妥当性検証について学び、テストが社会へ与える影響や最近の新しい方向性について確認する。また、テスト作成や分析や、演習問題への回答や議論を通して、理論と実践への理解を深める。

Beginning with an introduction to what foreign and second language testing and assessment are, students will develop an understanding of how to develop tests, including test tasks and scoring methods. Students will also learn test validation, in which test developers and users examine to what degree test interpretation and use are appropriate. Students will also grasp a basic understanding of the impact of tests on society and recent trends in research. Students will further develop greater understanding of theory and practice, by experiencing test development and analysis and working on exercises and discussions.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス(シラバスの説明等)
2. 教室内テストと標準化テスト: 様々なテストの比較
3. テスティング、言語テストとは何か
4. コミュニケーションと言語テストの設計
5. テスティングの開発サイクル
6. 評定手順
7. 妥当性: テストをテストする
8. 測定
9. 言語テストの社会的性格
10. 新しい方向、それはジレンマか
11. テストの項目分析法
12. プロジェクト1: 先行研究の再現研究の計画
13. プロジェクト2: 先行研究の再現研究の実行
14. プロジェクト3: 先行研究の再現研究の結果等発表

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

主な課題は、テキスト理解の後、そのまとめと議論点の作成を行うことである。詳細は授業で指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業の積極的参加 (Active class participation)(20%)/提出物・課題 (Assignments)(50%)/プロジェクト発表・レポート (Project presentation and report)(30%)

テキスト(Textbooks)

1. McNamara, T.(著)、伊東祐朗、三枝令子、島田めぐみ、野口裕之(監訳)、2004、『言語テスト概論』、スリーエーネットワーク (ISBN:978-4883193127)

参考文献(Readings)

1. 小泉利恵(編)、2022、『実例でわかる英語スピーキングテスト作成ガイド』、大修館書店 (ISBN:978-4469246551)
2. 小泉利恵、印南洋、深澤真(編)、2017、『実例でわかる英語テスト作成ガイド』、大修館書店 (ISBN:978-4469246100)

3. 小泉利恵、2018、『英語 4 技能テストの選び方と使い方—妥当性の観点から—』、アルク (ISBN:978-4-489-02262-3)
 4. 根岸雅史、2017、『テストが導く英語教育改革』、三省堂 (ISBN:978-4385363561)
 5. 望月昭彦、深澤真、印南洋、小泉 利恵(編)、2015、『英語 4 技能評価の理論と実践: CAN-DO・観点別評価から技能統合的活動の評価まで』、大修館書店 (ISBN:978-4469245912)
 6. 静哲人、2002、『英語テスト作成の達人マニュアル』、大修館書店 (ISBN:978-4469244717)
 7. McNamara, T.. 2000. *Language Testing*. Oxford University Press (ISBN:978-0194372220)
- 若林俊輔、根岸雅史(著)、『無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る—正しい問題作成への英語授業学的アプローチ』、大修館書店、1993、978-4469243369
- 松沢伸二、『英語教師のための新しい評価法』、大修館書店、2002、978-4469244748

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

1. 授業形態について

PowerPoint を使用して解説や学生の発表がなされる。

授業全体で積極的な受講態度が期待される。

グループまたは個人で、テキスト内容の発表やプロジェクト発表、レポート作成を行う。

授業資料や課題は立教時間と Blackboard に掲載する。

2. 課題に対するフィードバックについて

提出物や発表に対して、個別や全体に向けたフィードバックを適宜行う。

注意事項(Notice)